

氏名 笛 吹 圭 二

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 246 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和42年 9 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第5条第2項該当)

学 位 論 文 題 目 **Donryu 系ラッテ肝組織からの 7 株細胞の樹立とそれら 7 株細胞の腫瘍形成能について**

論 文 審 査 委 員 教授 佐藤 二郎 教授 村上 栄 教授 小川 勝士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Donryu 系ラッテの肝組織から 7 培養細胞株を樹立した。6 株は上皮性細胞株他の 1 株は非上皮性細胞株と考えられた。上記 7 株細胞は培養期間が短い間は略均一な細胞形態を示したが、培養期間が長くなると morphological Transformation を起した。又、培養期間略 1000 日の時の幹細胞染色体数はすべて正 2 倍体からはずれていた。7 株細胞は生後 24 時間以内の Donryu 系新生児の皮下、腹腔内或は脳内に接種された。7 株細胞の内 5 株細胞は腫瘍形成能をもっていた。腫瘍を形成しラットが腫瘍死するには平均 228 日を要した。腫瘍は継代移植陽性であった。腫瘍の病理組織像は癌腫 1 株、肉腫 1 株及び癌肉腫 3 株であった。

(昭和42年10月細胞核病理学雑誌, 11巻3号, 掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は培養細胞の自然発癌について Donryu 系ラッテ 7 匹の肝組織培養細胞を材料として検討したものである。7 株細胞はいずれも、培養期間が長くなると morphological transformation をおこした。このうち 5 株は動物接種で腫瘍を形成し、腫瘍は動物移植が可能であった。培養細胞の自然発癌についてこの研究の様な長期間の詳細な研究は従来報告されていない。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。